広報 九州
国民の森林・国有林
平成30年2月10日
（2018年）
No.1752
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁2－7
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

第4回 保護林管理委員会を開催

～やんばる森林生態系保護地域設定を了承～

12月14日、今年度第4回目の九州森林管理局保護林管理委員会を開きました。

委員会の冒頭、当局原田隆行局長より、「やんばる地域の保護林設定については、これまで計3回の委員会で検討いただいた。また、本年10月には、IUCNによる現地調査及び関係者への聞き取りなどが行われ、米田健委員長や伊澤雅子委員にも対応いただいた。保護林設定については、関係者の理解が得られていると考えており、今回も熱心な議論をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて、米田委員長より、IUCNの調査に同行した際に、返還地の国有林も視察したことや、自然度の高さに調査員が感動していたことなどの報告がありました。

挨拶する原田局長

その後議事に入り、事務局から「やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）」「猪八重地区における保護林の設定（案）」「綾森林生態系保護地域の拡充（案）」「平成30年度保護林モニタリングの調査箇所及び調査項目（案）」について説明を行いました。

○やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）については、これまでの審議内容や関係者への聞き取り調査などを踏まえ、最終案を提示して審議を行いました。

具体的には、「44林班と46林班の境を流れる我地川沿いの保存地区については、両岸の尾根までを区域とすることで支流を含めている」「県営林の63林班及びその南側の県有林では伐採予定がないので、隣接する部分には保全利用地区を設けない」「42林班及び43林班の東側（保護林区域外）については、琉球大学との連携協定に基づく試験地の設定を検討する」「首里城古事の森の取扱いについては、伐採を含む施業方法などについて、具体的な方針を古事の森協議会と沖縄森林管理署とで調整し、委員会に報告する」との内容を説明し、設定案が了承されました。

これにより1997年から検討が始まり、関係者の間で永らく念願とされていた「やんばる森林生態系保護地域」が正式に保護林として設定されることとなりました。

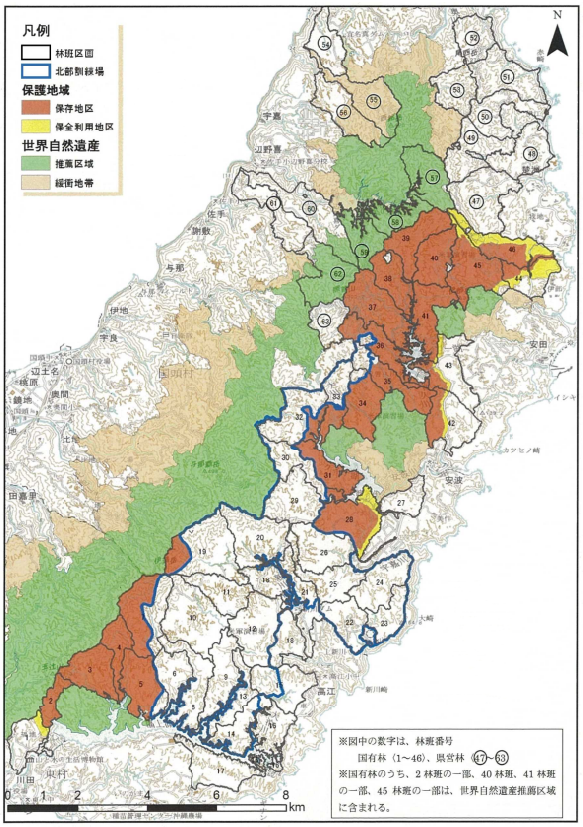
○猪八重地区の保護林設定（案）については、前回の審議内容を反映した新たな設定案を提示しました。

委員からは、「櫛状に入り込んでいるレクリエーションの森では、沢登りの利用者がいるが、この沢には希少種が生育しており、保護林に含めて一体的に保全すべきではないか」との意見が出されたことを受け、レク森協議会の意向を確認するなどの調整を図り、設定案を再検討することとしました。

○綾森林生態系保護地域の拡充（案）については、一昨年の保護林制度改正に伴い、保護林から除外されることとなった「てるは郷土の森」について、隣接する綾森林生態系保護地域に統合することを提案しました。

委員からは、「統合・拡充部分と資料のデータとの対応が不

やんばる森林生態系保護地域全体図



明確である」「ゾーニングの考え方をもっと簡潔・明瞭に説明すること」「課題を管理方針書の内容に反映させること」「郷土の森であった２０４１林班も統合することを再検討して欲しい」などの意見がありました。

○平成30年度保護林モニタリングの調査箇所及び調査項目（案）については、今後、順応的管理（ＰＤＣＡサイクル）を取り入れた新たな調査方法になることを説明し、理解を得るとともに、平成30年度調査箇所選定の考え方や、具体的な調査箇所についても了承されました。

今後は、いただいた意見を踏まえ、さらに現地の実態も把握した上で、次回の委員会で改めて設定案などを提示することとしています。

（担当＝計画課）

活発な議論が行われた委員会の模様

人のうごき

☆1月11日付異動

林野庁森林整備部治山課長
大政康史【森林整備部長】

森林整備部長
松葉瀬裕之【東北局森林整備部長】

（担当＝総務課）

新任挨拶 どうぞよろしく

平成30年1月1日・11日付の異動により、新しいポストに就かれた、森林整備部長・沖縄森林管理署長をご紹介します。

森林整備部長

松葉瀬　裕之
まつばせ　ひろゆき

年　齢　59歳
出身地　鹿児島県
前　職　東北局森林整備部長
担　負　約3年ぶりの九州局勤務です▼他局在勤中に、地震、豪雨災害からの地域復興のために職員の皆さんが貢献されていること、林業のトップランナーとしてさまざまな取り組みを率先して取り入れていることなどなど常に注目していました▼九州林業の成長産業化を目指して、林業の低コスト化の普及・拡大、国産材の安定的供給・販路の拡大に取り組むとともに、明るく活気あふれる働きやすい職場づくりに取り組んで参ります▼よろしくお願いします。

沖縄森林管理署長

宮　俊輔
みや　しゅんすけ

年　齢　52歳
出身地　東京都
前　職　（国研）森林総合研究所育種企画課長
担　負　九州森林管理局内での勤務は初めてですので、よろしくお願いします▼奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産につきましては、登録の実現に向け、地元市町村や関係機関とも連携しながら、尽力していきたいと考えております▼また、沖縄の森林・林業の振興について、県庁や市町村、大学の研究機関等との意見交換を図りながら、国有林としてどのような協力ができるのか、検討していきたいと考えております。

◇転任挨拶◇ お世話になりました

前 森林整備部長
大政　康史

仕事納めの日に内示を頂き、1月11日付けで林野庁治山課に異動となりました。2年9ヶ月の間、皆様方には大変お世話になり、どうも有り難うございました。

大分県庁に出向して以来の約4年ぶりの九州勤務でしたが、大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働など、この間に川下の需要が飛躍的に拡大したことを痛感しました。

また、一貫作業システムに馴染むコンテナ苗の普及とともに、素晴らしく成長の良いスギのエリートツリーが開発されつつあるなど、林業成長産業化に向けた様々な芽が、九州の地においては育ちつつあることも実感しました。在任中、これらの芽の生長に少しでもお役に立てたとしたら幸いです。

また、熊本地震や九州北部豪雨など、未曾有の自然災害にもみまわれました。こちらでは群馬で、これまで噴火が観測されていなかった本白根山が噴火するなど、安全と思われていたエリアでさえ、十分気をつけておくことが必要な時代となってきたと思います。とても暮らしやすい熊本・九州ですが、今一度、安全・安心について振り返ってみることも必要かと思います。

年始の急な異動であり、きちんとご挨拶も出来ないまま九州を去りましたこと、紙面を借りましてお詫び申し上げます。林野庁本庁にお越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

九州森林管理局から、九州の、そして日本の森林・林業・木材産業が益々変革していくことを祈念いたしますとともに、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げ、転任及びお礼の挨拶とさせて頂きます。

車両点検講習を実施

【鹿児島森林管理署】 1月11日、JAF鹿児島支部の職員2人を講師に迎え、安全勉強会の一環として多くの職員が参加し、車両点検について講習を受けました。

今回の勉強会は、健康安全協議会の中で「車両点検の方法が不明な職員もいるのではないか」との意見があったことから、車両管理に精通しているJAFに講習を依頼したものです。

始めに、日常の車両点検は、道路運送車両法第47条において「使用者の点検及び整備は義務」であること、また、「自動車の使用者は、自動車の点検をし、必要に応じ整備をすることにより、当該自動車を保安基準に適合するよう維持しなければならない責務がある」ことについて説明がありました。

その後、当署で使用している車両を使って、タイヤ・エンジンルーム・ブレーキの踏みしろなどの日常点検の方法について説明を受けました。

当日は、寒波の厳しい中での安全勉強会でしたが、車両を常に点検して適正な状態を維持することは、運転するものの責任・義務であるということを参加者全員が確認し、講習を終了しました。

JAF職員の講習に聞き入る署職員

議員行政視察を受入

【屋久島森林管理署】 1月17日、愛媛県西条市議会からの要請に応じて、会派自民クラブから11人の議員の行政視察を受け入れ、当署の取組などについて説明を行いました。

はじめに、署会議室において岩本清文次長から、屋久島の森林・林業の概要について説明を行い、続いて安房貯木場に移動し、平田謙吉主任森林整備官と廣田俊之森林整備官から、ヤクスギの歴史と現状について説明を行いました。

議員からは、「植栽箇所のシカ対策はどうしているのか」「屋久島は温暖多雨な気候なのに、どうして年輪が詰まっているのか」などの質問がありました。

また、安房貯木場では、保管されている樹齢千年を超えるヤクスギ（土理木）の、目の詰まった美しい年輪や木目・独特の香りに驚かれていました。

当署としては、今後とも外部視察などを積極的に受け入れ、当署の取組をPRするとともに、国有林野事業に対する理解を深めてもらう取組を行っていく考えです。

職員の説明を聞く議員の皆さん

国有林モニター会議@人吉市に参加して

石原 資展

（佐賀県佐賀市在住）

現地視察は半日程度の時間でしたが非常に中身の濃い内容で、とても満足しました。

視察の試験区には様々なゾーンがあり、それぞれのゾーンでどういう問題があり、そのためにどう対策を取っている、あるいは仮説を元に実証としているというものでした。

下刈りをあまりきっちりしない方が雑草雑木にまじって苗木が鹿に食べられない、ツリーシェルターという半透明の白い筒を苗にまくと獣害防止の他、苗木の成長が著しいなど、とても面白いお話を聞けて勉強になりました。

私自身の仕事や生活に直接関係することはありませんが、広い視野を持つ機会をいただきありがとうございます。

松本 洋一

（熊本県山都町在住）

次世代造林プロジェクト現場視察においては、支援センター所長並びに副所長の立板に水の明快な説明に、試験地での取組について、モニター参加者全員がよく理解することができました。

また、鳥獣被害対策の取組の紹介の中の、巾着式あみはこ罠実演においては、シカ役になって体験ができました。今後の鳥獣被害対策の更なる開発、改良に期待しております。

津曲 博己

（鹿児島県志布志市在住）

今回、国有林モニター会議で人吉市の国有林低コストモデル実証の団地を視察することができました。

九州森林管理局の担当者の方から次世代造林プロジェクトについて説明を受け、その中で感じたことは、想像していた以上にシカの獣害被害が深刻な状況にあることでした。

私の住む地域ではシカによる食害はないため、シカ捕獲用の罠の実演や食害を防ぐためのツリーシェルターを利用した取組を学べたことは有意義でした。

今後、シカの生息域が広がっていることから、植林時の初期投資をいかに低コストに抑えることが出来るかが鍵になることを実感することができました。

益々の研究・改善を重ねてもらい、魅力ある山林の育成ができるように期待したいです。

第3回 国有林材供給調整検討委員会を開催

～長期的な需要動向を見据えた素材供給に努める～

12月19日、本年度3回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開き、各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現時点での供給調整は要しないが、今後も木材需要の増加が見込まれることから、長期的な需給動向を見据えながら、地域と連携した素材供給に努めることとする」との検討結果となりました。

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○丸太が売れない時期もあったが、今は需要が増えて木材の売れる時代がようやく来た▼一方で、林業の担い手不足が大きな課題▼今後は、むやみやたらに出材するのではなく、再造林や下刈りが出来る体制の整った箇所から伐っていく必要がある。

○生産量を増やすためには、まとまった面積、量で年次計画を立てることが重要▼また、伐採・搬出コストを下げるだけではなく、境界問題など根本的な部分を何とかする必要がある。

○長期的な需給動向よりも直近の需給状況が価格の決定に強く影響している状況▼長期的な生産見通しなど、将来的な安定供給の姿を示すことにより、価格の安定が図られるのでは▼国産2×4材の需要が月を追うごとに増しており、2×4材を通じて木材の需要が変わってきたと感じる▼これまで国産材が使われなかったところにも全力で取り組んでいく。

○九州北部豪雨の復旧が進み、通常の生産量に戻りつつあるが、今後は復旧工事により建設業と林業とで人手の取り合いになることが心配される▼製品は旺盛な需要のもと動きがいい▼製材業者は、増産に走る者と、増産したいが原木価格の上昇を製品に転嫁しづらいため消極的となっている者の2極化しており、微妙なバランスが取れている状況にある。

○木材需要がある今、しっかりと外材と競争してシェアを取ることが大切▼しっかりと原木を供給してもらい、そのうえで価格を段階的に上げていくべき▼素材業者、製材業者が連携して取り組んでいくことが必要。

○九州では合板がかなり不足している▼原料丸太の在庫も減っているが、台風や長雨で出材不足になったことのほか、山から製材工場への直送が増えていることによる▼土台用等の米材の供給が減っており、ヒノキがそちらに流れている分、合板用のヒノキ丸太の入荷が悪くなっていると感じる。

○製紙用チップについて、製紙業界が生産量を落とすため、チップ価格を下げるよう要望があるが、原木価格高により横ばいで推移する見込み▼バイオマス用チップは慢性的な原木不足の状況にあり、原木集荷に苦戦している▼A、B材が山から出てこなければC材も出てこない。

（担当＝地域木材情報分析官）

委員会にて挨拶する原田局長

多くの意見が出された委員会の模様

ヤクタネゴヨウの森林教室を開催

【屋久島森林管理署】 1月13日、西之表市の嘉永山公園敷地内において、ヤクタネゴヨウ保全の会主催により、西之表市立榕城小学校6年生約80人を対象にした森林教室が開かれ、当署及び西之表市も協力者として参加しました。

当日は、晴天にも恵まれ風もなく暖かい中、各参加団体の挨拶の後2班に分かれた子供たちに、各機関から交互に30分程度絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの松枯れやその対策などについて話を行いました。

当署からは、西之表森林事務所渡瀬博美首席森林官と冨田尚斗技官が参加し、森林の大切さや生物多様性の話、松くい虫被害のメカニズムについて説明を行いました。

その後、子供たちに実際に松くい虫の被害木に触れてもらい、被害木を割ったり削ったりして、マツノマダラカミキリの幼虫を見つけてもらいました。子供たちは、最初は怖がりながらも最後には楽しそうに幼虫を見つけていました。

最後に、子供たちや先生方から「楽しく勉強ができ良い経験ができた」などの感想を頂くとともに、また来年度もヤクタネゴヨウ保全の会と森林教室を開いてほしいとの申し出がありました。

当署としては国有林のPRのために来年度も引き続き森林教室を開き、次世代の子供たちに森林の大切さと豊かな自然を後生に残すことを伝えていく考えです。

被害木を割り幼虫を見つける児童

依存症を知っていますか？

～衛生講話で依存症について学ぶ～

自主健康管理推進月間の行事として、1月16日、局大会議室において「依存症を知っていますか」と題した衛生講話を開き、多数の職員が参加しました。

講話では、講師の熊本市こころの健康センター保健師中岡加奈江氏より、依存症について詳しく話していただきました。

依存症は、「気分を変えるため」「ちょっと気晴らしに」程度から始めたことが、より強い刺激を求めるようになり、それが最優先事項となって物事の考え方や感じ方が歪んでしまう、意思や性格の問題ではなく脳の病気であり、「物質依存」「プロセス依存」「人間関係依存」の3つのタイプがあるとの話がありました。

講師の中岡氏

次に代表的な、物質依存の「アルコール依存」「薬物依存」、プロセス依存の「ギャンブル依存」について話があり、「アルコール依存」は、飲み続けることで脳に変化が起き、自分の力で飲酒のコントロールができなくなること、「薬物依存」では、薬物乱用の繰り返しの結果として生じた脳の慢性的な異常により、脳細胞が壊れ性格も変化すること、「ギャンブル依存」では、パチンコ、競輪、競馬などのギャンブルにのめりこんで、やめたくてもやめられなくなってしまうことで、どの依存症も本人だけでなく家族など周囲の人、社会全体にも影響を与えるとのことでした。

依存症の講話に聞き入る職員

最後に「依存症は本人の意思や性格の問題ではなく、誰でもなり得る病気であることから、ストレス解消、気分転換を見つけて日頃から自分のケアが必要です」と締めくくられ、職員も真剣に聞き入っていました。

この講話が、職員皆さんの健康管理の一助になり、健康で明るい職場づくりに繋がれば幸いです。

（担当＝総務課）

現地研修会を受入

【宮崎北部森林管理署】宮崎県が推進する「山村地域の持続的発展推進会議」の専門部会による現地研修会を、日向市の音羽山国有林で開きました。

当日は、西臼杵支庁及び高千穂・日之影・五ヶ瀬町の職員、並びに西臼杵地区林業関係者の総勢20人が現地を訪れ、当署の大石成人主任森林整備官より、早生樹植栽と獣害対策の取組概要について説明を受けました。

署の取組の説明を受ける参加者

その後行われた意見交換会では、早生樹について多くの質問があるとともに、獣害対策については、中山間地域における民国共通の問題であることを踏まえ、今後とも情報を共有しながら連携を図り、林産業成長による地域の活性化への貢献を目指していくことを確認し、研修会を終了しました。

熊毛地区植樹祭開催

【屋久島森林管理署】1月17日、中種子町中央運動公園において、「小さなめ そだてて作ろう 大自ぜん」のテーマのもと、熊毛流域森林・林業活性化センター、中種子町、鹿児島県熊毛支庁、屋久島森林管理署主催による、第64回熊毛地区植樹祭が関係者約130人が参加して開かれました。

式典では、主催者を代表して開催地である田渕川寿広中種子町長から、「熊毛地区の森林の整備推進はもとより、快適でうるおいのある地域づくりに取り組むとともに、豊かな環境を未来へつなぐことが重要である」との挨拶がありました。

続いて、林業功労者表彰、植樹祭テーマ公募入賞者、林業技術競技会入賞者など各種表彰が行われ、受賞者へ賞状と記念品が贈られました。

また、「平成29年度熊毛地区植樹祭スローガン」が採択され、熊毛地区の森林の整備、緑化活動のさらなる発展を参加者全員で誓いました。

その後、植樹会場へ移動し、当署渡瀬博美首席森林官が植樹要領の説明を行った後、参加者でサクラの木を植樹しました。

代表植樹では、当署川畑充郎署長及び各市町首長、地元選出県議会議員、県熊毛支庁長など関係機関の代表者が、今後の成長を祈りながら植樹を行いました。

なお、熊毛地区植樹祭の開催地は4市町の持ち回りとなっており、来年度は南種子町で開かれる予定になっています。

代表植樹を行う川畑署長

三里松原松葉かきを実施

【福岡森林管理署】 12月10日、岡垣町の当署管内黒山浜国有林において、三里松原防風保安林保全対策協議会主催による、三里松原松葉かきが行われ、岡垣町立岡垣中学校の生徒や地元住民約300人が参加しました。

当日は、悪天候のため少し早めに開会式を行い、岡垣町長と協議会会長のあいさつ、当署職員の紹介があり、その後参加者たちは用意された道具を手に松林へと入っていきました。

心配された天候も時折小雨のぱらつく程度で、中学生や参加者は慣れない手つきで松葉をかき集ていました。集めた松葉を軽トラックに積み込む作業では、参加者の額から大粒の汗が流れていました。

300人が参加した松葉かき

作業終了後の、松葉がきれいに取り除かれた松林に、参加者からは「これで松も元気になる、昔この辺りで採れたキノコも戻ってくる」などの声も聞かれ、嬉しそうに松林を後にしました。

この取組は、岡垣町のシンボル・財産である三里松原を保全・保護することにより、農地を守り農業生産力の向上を図るとともに、町民の生活文化を守ることを目的として、1994年に設立された、国有林や地元の関係者で構成する「三里松原防風保安林保全対策協議会」の活動で、設立以降毎年12月に松葉かきを実施しており、他にも植樹や除伐作業をボランティアで実施しています。

不法投棄ゴミを回収

【宮崎署都城支署】 12月12日、国道265号線沿いの山ノ口国有林において、クリーン活動を行いました。

当日は、県土木事務所や小林市役所職員、近隣の請負事業体のほかNPO法人の方にも協力いただき、当支署職員も合わせて総勢75人で、不法投棄されたゴミを回収しました。

国道から一歩林内に入ると、空き缶やペットボトルなどの小さなゴミだけでなく、タイヤや冷蔵庫などの家庭ゴミまで投棄されており、全体で約2トンのゴミを回収することができました。

ゴミ回収に汗を流す参加者

不法投棄は国有林だけで起きている問題ではありません。今後も関係自治体や事業体などと協力し、森林への不法投棄を減らしていけるよう取り組んでいきます。

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物 ⑫③ コブシ（モクレン科）

春、桜と同じ時期に葉の付いていない幹に、鐘形のやや大きな花がいっぱいに咲き、山や公園を白く彩ります。

花が咲くのを観察すると、蕾から花が咲くのと同時に葉が一枚（写真の蕾と同時に葉が出ているのが分かりますか）付きます。

この葉がコブシと決める手がかりです。モクレンはこの葉が付かないのですが、花が満開になる頃には、葉も成長していますので間違えないようにすることが肝要です。

葉は先端が凸頭になる特徴があります。袋果はいびつな長楕円形となりますが、熟すまでは殻の中に閉じ込めておき、実が熟すと、鳥に食べて貰うように赤い種子を白糸で吊り下げます。動くことのできない植物のすごい知恵に驚かされます。

名前は、拳の意味で蕾の形に基づいてつけられました。実を噛むと辛い味でコブシハジカミの名もあり、ハジカミはコショウの意味です。

春、冷温帯林の緑の山肌に、コブシとタムシバの花が、白色をまばゆいほどに輝かせています。

みどりの散歩路

雪それも大雪、1月は寒さも厳しく日本列島が白一色に変わったようでした▼その白い景色を一変させた、群馬県・草津白根山の噴火、噴石により1人の方が亡くなり11人が負傷されるという痛ましい災害となりました▼草津白根山は、日本百名山にも選ばれ多くの登山客が訪れる観光地、その様な場所で起こった噴火でした▼九州でも桜島や阿蘇山、雲仙岳、霧島山など活火山が多く、予測できない噴火がどこで起きてもおかしくないのが現状です▼気象庁では噴火速報の対象を拡大し、国内全ての活火山について行うことを決めました▼山で働く者としてこれらの情報を活用し、いつ何処で起こるか予測が難しく、「不意打ち」とも言える火山噴火に備えたいものです。（き）